

コロナ禍における吸入指導の最適解とは？

適切な吸入療法には、処方された吸入薬を用いた患者さんへの吸入手技指導が欠かせません。しかし、新型コロナウイルス感染症が流行している昨今、感染リスクの観点から、患者さんへの吸入指導を回避せざるえないとする流れが生じているようです。

確かに、パンデミックと言われるような感染症が広域に大流行している状態下では、感染の原因となりうる行為は慎むのが原則です。今回流行している新型コロナウイルスに関しては、主たる感染経路は「飛沫感染」です。吸入手技指導に際しては、「薬剤師がしてみせて、患者さんにさせてみせて」の実演・実技指導が欠かせません。この実技指導には、飛沫の発生・拡散を伴います。新型コロナウイルス感染感染リスクを確実に封じるには、「実演・実技指導をしない」ことこそが正しい判断となります。しかし、「実演・実技指導をしない」ことは、患者さんに適切な吸入手技を習得いただくという観点からは誤った判断です。従前より繰り返し報告されている論文データを紐解くまでもなく、日常臨床において強く実感させられるとおり、実演・実技指導なしに患者さんに適切に吸入手技を習得いただくことは困難を極めます。

「飛沫の発生・拡散を伴わずに、吸入手技の実演・実技指導する」ことを目標に、現在、様々な取り組み・工夫がなされています。我々、北埼玉吸入療法連携会のホームページでも、「[COVID-19 時代の吸入指導 New normal](#)」を掲載しています。我々が重視しているのは、普遍的な吸入手技指導の先にある、個々の患者さんに対しての吸入手技の誤り：ピットフォールの洗い出しとそれを修正していく指導です。この指導には、薬剤師による複数回の地道な努力が必要です。しかも、かような指導を「デジタルデバイス・オンライン」に置き換えることは困難で、対面での指導とせざる得ないと判断しています。ゆえに、「飛沫を発生させない工夫」としてマスクやハンカチ等で呼気を封じる、「発生した飛沫を速やかに除去する工夫」として換気について、「そもそも指導を短時間で終了させる工夫」として指導資材の活用を挙げています。

COVID-19 のパンデミックから、早 1 年超。コロナ禍における適切な吸入手技指導

はいかなるものなのか？真の最適解とは？そろそろ結論を出していく時期かと思われ
ます。我々、北埼玉吸入療法連携会では、吸入薬を処方された患者さんや吸入手技指
導に携わる薬剤師を対象に、新型コロナウイルス感染症流行下での吸入手技指導の実
情とその対策を明らかにする研究を始めました。これと並行して、広く皆様とコロナ
禍における適切な吸入手技指導を検討すべく、FAQ 広場も開設しました。「コロナ禍
における吸入指導の最適解とは？」よりよい結論を見いだし、広く皆様にご報告でき
ればと考えています。

（文責：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器内科 高久 洋太郎）

